様式第４号

先 進 地 調 査 等 報 告 書

令和元年８月30 日

天 童 市 議 会 議 長　　様

会 派 名　　清新会
代表者氏名　　村 山 俊 雄　　印

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期　　間	令和元年７月１７日（水）から令和元年７月１９日（金）まで
調査（視察）先 調　査　項　目	1　大阪府豊中市　「若者支援の取り組みについて」 2　大阪府堺市　「ダブルケア相談窓口について」 3　兵庫県明石市　「こども食堂について」 「一般社団法人あかしこども財団について」
調査（視察）目的	不登校やひきこもり等、若年層の社会からの離脱が長期化することで、新たな問題が生まれており、課題解決に向けた具体的な対策を探る。 晩婚化に伴う高齢出産や少子化等により、子育てと介護を同時期に抱える「ダブルケア」について、課題解決に向けた具体的な対策を探る。 子ども食堂の運営方法、課題と対策を、先進的な明石市の取り組みから探る。
市　政　と　の 関　連　性	○「８０５０問題」は、本市においても避けては通れない課題であり、早期の対策が望まれる。 ○晩婚化に伴う高齢出産や少子化等による「ダブルケア」は、本市においても負担軽減に向け早期の対策が望まれる。 ○「子ども食堂」が本市にも開設した。充実した取り組みを持続するために、行政の積極的な支援が求められる。

調査（視察）内容	1 「若者支援の取り組みについて」 ○事業の概要 ○こども・若者支援協議会 ○関係機関との連携 ○課題と展望　　など 2 「ダブルケア相談窓口について」 ○経緯 ○業務概要 ○支援策 ○関係機関との連携 ○課題と展望　　など 3 「こども食堂について」 ○経緯 ○概要 ○市の関わり　など 「一般社団法人あかしこども財団について」 ○概要 ○事業内容 ○課題と展望　　など
市政の課題への参考等	・若者支援は切れ目のない支援と情報の共有が重要である。 ・ダブルケア支援については、ダブルケアの状況になる前に情報の提供等を行い予防することも必要である。 ・こども食堂については、こどもの貧困対策を目的とするのではなく、地域の居場所づくりの拠点として取り組むことが重要である。
参加者の感想等（抜粋）	1　大阪府豊中市「若者支援の取り組みについて」 ・若者支援は、切れ目のない支援と情報の共有が肝要である。 ・「若者支援計画」をよく理解し、総合的にサポート相談できる部署や、人材の確保が大切だと感じた。 ・本市においても、早急に子ども・若者の現状を調査し、問題解決と個人に合った細やかな支援ができるように取り組める環境づくりの必要があると感じた。 ・人間関係の複雑化、関わりたくない社会環境の中でどんな支援策ができるか考えていきたい。 2　大阪府堺市　　「ダブルケア相談窓口について」 ・予算については調査費用のみで、建物や人件費は新たな経費がなく、工夫して実施している。 ・個別ケースへの対応力を強化しているが、１件ごと内容が異なるため多くの苦労がある。他市からも相談に来ていること。相談者の悩みに寄り添っ

	た職員の対応の良さを感じる。 ・当初は相談も少なかったが、育児、就労で介護が困難な世帯に対して、施設に入所する際の入所基準を緩和したり、認可保育所の入所申込みの加点を追加する等の優遇措置をとることで相談窓口を訪れるようになったという。本市でもダブルケア世帯の調査が必要なのではないか。 ・ダブルケア支援の課題は明確だが、ダブルケアの状況になる前の情報の提供等の予防策も肝要。 ・本市においても、各課連携をスピーディーにしながら、ワンストップ相談とし、特に、子育てと介護の問題を抱える家庭の支援がスムーズに行える施策が必要だと感じた。 ・縦割りの行政の中で、子育て・福祉部門が連携できるということが実証されていると思う。ダブルケアの問題を、今後は関心を持ちながら活動していきたい。 3　兵庫県明石市　「こども食堂について」・「一般社団法人あかしこども財団について」 ・主に児童クラブに通所していない子どもの利用が多いとのことで、ある程度利用が分かれており必要性の見極めが重要と考える。 ・子育て支援は大切であるが、先を見据えた身近な助け合い等の妙薬探しが大切と考える。 ・放課後児童クラブは各小学校区に設置されているが十分ではないようで、本市では放課後児童クラブが充実しているので、子ども食堂が必要なのかと考えさせられた。 ・子ども食堂を子どもの貧困対策ではなく、地域の居場所づくりの拠点として取り組むことが肝要。 ・今後、本市でも子ども食堂が機能していくか、予算、人手、スケジュール等懸念することがあるが、子どもに優しい環境づくりに努力していきたい。 ・子ども食堂というと、貧困とすぐに結びつけてしまいがちだが、そうなると、寄りづらい環境を作ってしまうということに気付いた。子どものいろいろなＳＯＳに気づくことが大切であり、今後の活動に大いに参考になった。 ・“すべての子どもの幸せのために”を想いに、地域、企業、行政が、共に子どもの健やかな成長を願い、応援していこうと「あかしこども財団」を設立したということに興味を持った。 ※個人ごとの報告書は別添のとおり